

実践記録（小1・算数）

1 ねらい

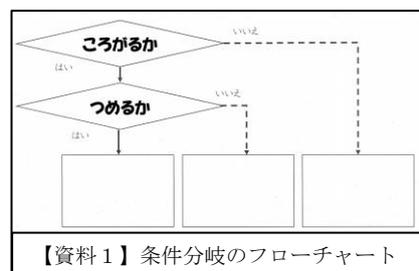
立体の形の特徴をもとに、条件分岐のフローチャートを使って立体を分類することができるようにする。

2 手立て

条件分岐のフローチャートの表を使って、「はい」か「いいえ」で立体を仲間分けする活動を行うことを通して、立体の形状や特徴についての理解を深めることができるようにする。

3 実践の様子

授業の導入では、グループで空き箱や空き缶、ボールに触る活動を行い、気付いたことを発表させた。児童からは、「転がる。」「積むことができる。」「かくかくしている。」などの発表があった。そこで、「積むことができる形はどれですか」と聞くと、すぐに「これ！」と複数の空き箱を指さす姿が見られた。その後、「似ている形に仲間分けしましょう」と本時のめあてを伝えた。「転がるか。」「積めるか。」の2つを考えることで仲間分けができることを伝えてから、フローチャートの条件分岐の欄に書き込ませた。【資料1】



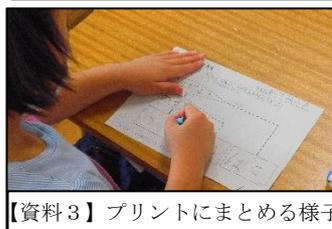
【資料1】条件分岐のフローチャート

どのグループも、フローチャートの上に空き箱や空き缶、ボールを置き、実際に動かしながら仲間分けを行っていった。【資料2】あるグループでは、筒の形をした空き箱について積むことができるか、できないかで意見が分かれる場面が見られた。そこで、児童に実際に試してよいことを伝えた。積み上げることができることを確認すると、全員が納得して「積むことができる」に分類した。



【資料2】活動の様子

仲間分けの結果を、学級全体で発表した。似ている形に分けると、箱の形、筒の形、ボールの形の三つのグループに分けられることを理解することができた。また、一つ目のグループと順序を逆にしたグループの結果を取り上げ、同じように分類できたことを確認した。その後、フローチャートの結果をプリントにまとめた。【資料3】



【資料3】プリントにまとめる様子



【資料4】形当てゲームの様子

授業の最後に、形当てゲームを行った。【資料4】形当てゲームとは、形を選ぶ子と、選んだ形を当てる子に分かれ、選んだ子に、フローチャートの条件を質問し、「はい」か「いいえ」で形を当てるゲームである。質問をした子は、フローチャートを手掛かりに形を当てる様子が見られた。また、間違ってしまった場合には、グループの子がフローチャートを確認して、誤りを直す様子が見られた。

4 成果と課題

- 条件分岐のフローチャートを使うことで、条件を一つずつ確認しながら取り組み、正確に仲間分けをすることができた。
- 形当てゲームで、学んだことを生かして形を当てたり、間違っている児童の誤りを直したりすることを通して、立体の特徴についての理解を深めることができた。
- 仲間分けをする意味が理解できていない児童がいた。授業の導入でどのように仲間分けができるか予想をさせる活動があるとよかった。